

Okinoshimaだより

第168回 セーリングフェスタ & 牡蠣パーティー 開催のお知らせ 2月23日(日)

毎年恒例となりました「セーリングフェスタ&牡蠣パーティーを開催致します。
とても寒い時期ですが、牡蠣のおいしい時期ですので、レースを終えた後懇親会を行います。もちろん、レースに参加されない方のパーティーへのご参加も大歓迎ですので、みなさん奮ってご参加下さい。

開催日 2月23日(日) レース(参加費無料)

09:00 艇長会議(クラブハウス前)

10:00 レーススタート(予定)

11:45 タイムリミット

牡蠣パーティー 会費 大人1人 1,500円(小学生以下無料)

12:30 開始(予定)

殻付焼き牡蠣・カキフライ・飲み物

パーティーの参加費は、当日お支払下さい。各自の食材・飲み物の持ち込みも歓迎致します。

パーティーへの参加は、2月18日(火)までに、必ずマリーナにお申込み下さい。

事前にお申込みの無い場合は、参加をお断りする事があります。食材の都合などありますので、期限厳守でお願い致します。

お申し込みは、マリーナ事務所まで

TEL(0823)57-2450 FAX(0823)57-6845 E-mail okinoshima@mbp.sphere.ne.jp

2020年 行事予定

昨年はマリーナ行事に大勢の方のご参加をいただきありがとうございました。
今年のマリーナ行事予定が決まりました。スケジュール帳にチェックをよろしく願います。
沢山の方々のご参加をお待ちしています。



2月23日(日) 168回セーリングフェスタ
& 牡蠣パーティー

9月20日(日) 172回セーリングフェスタ
(島周りロングレース)

3月15日(日) 169回セーリングフェスタ

10月11日(日) 173回セーリングフェスタ

5月10日(日) 170回セーリングフェスタ

11月 8日(日) 174回セーリングフェスタ

7月12日(日) 171回セーリングフェスタ

12月 6日(日) 175回セーリングフェスタ&忘年会
(餅つき大会)

島周りロングレースは、都合により従来の10月から9月開催へ変更させていただきました。

マリーナ棧橋入れ替え工事のお知らせ

マリーナ内の棧橋の老朽化に伴い、棧橋の入れ替え工事を随時実施しております。
入れ替えの際には、艇の一時移動をお願いすることになります。その際は、個別に連絡をさせていただきます。
入れ替え工事中は、棧橋への立ち入りを一時お断りさせていただくこともあります。
会員の皆様には、大変ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解とご協力をお願い致します。



JAPAN INTERNATIONAL BOAT SHOW 2020

日本国内では最大級となるマリンイベント『ジャパン・インターナショナルボートショー』が2020年3月5～8日の4日間開催されます。

200社以上の出展者・団体が一齐に集うこのイベントには、ボートやヨット、PWCのニューモデルを中心に、マリーナなどの施設やボート免許、さらに航海計器等のマリン用品にマリンウェアなど、マリンレジャーにかかわる2020年の最新情報が発信されます。

会場は従来と同じく「パシフィコ横浜」と「横浜ベイサイドマリーナ」となっており、横浜ベイサイドマリーナでは、フローティング形式の展示になっています。

■パシフィコ横浜

各メーカー・団体の展示に加えて、下記のような各分野のデモンストレーションやトークショーが催されます。

①屋内展示

②セーリングビレッジ(ヨット入門からエキスパートレーシングまで)

これからセーリングを始めたい方からベテランの方まで、誰もが楽しめるセーリングの世界にご招待します。小型のヨットを使ってのデモンストレーションやワークショップ、トークショーなど。

③ジェットビレッジ(水上バイクが大集合)

水上オートバイに関連する、製品や用品、アパレルなどが一同に集うのがジェットビレッジです。

艇体、用品の展示・販売はもとより、ジェットビレッジ内のステージでのイベントを行われる予定です。

④マリンキッズビレッジ(目指せジュニアキャプテン)

お子さまが海の乗り物や海に興味を覚えるきっかけとなるプログラムを3月7・8日の2日間で行われます。

⑤スモールボートコーナー(スモールボートならではの楽しみ方を紹介します)

インフレーターモデルを中心に展示されます。

ボートを楽しく快適に、そして安全に楽しむためのレクチャーなども行われます。

⑥オリンピック・セーリング競技応援プロジェクト

競技艇の展示や映像などでセーリング競技のルールや観戦のポイントなど、競技の醍醐味をお伝えします。

会期中にはオリンピックで活躍してきたセーラーも来場予定です。

⑦ライフスタイルアベニュー

自動車からアクセサリ、アパレルなど、さまざまなサービスや商品を展示されます。

■横浜ベイサイドマリーナ

①フローティング展示

大型ボートやセーリングクルーザー(ヨット)を中心に約50隻を係留展示。海上に係留された展示艇に実際に乗り込むことができ(一部を除く)、ボートやヨットの臨場感も体験できます。

②乗船体験(要予約)

マリーナ会場ならではの体験プログラム。ボート免許がなくても操船体験ができるプログラムやセーリングプログラムなど実際に海上にて体験できる人気プログラム。

未経験の方からベテランユーザーまで、レベルに合わせたプログラムが用意されます。

2会場間の移動は便利なシャトルバスかシャトルボートが用意されています。

パシフィコ横浜と横浜ベイサイドマリーナ間のアクセスは無料シャトルバス、ぷかりさん橋と横浜ベイサイドマリーナを結ぶシャトルボート(有料)が利用できます。

会期 2020年3月5日(木)～8日(日) 4日間 開館時間 10:00～17:00

※3月5日(木) 11:30開場

※3月7日(土) 19:00閉場(パシフィコ横浜のみ)

会場 パシフィコ横浜(屋内展示)

横浜ベイサイドマリーナ(フローティング展示)

入場料 一般 1,500円／高校生以上(中学生以下無料、2会場共通)

チケットの事前販売は行われません。来場時に窓口にてお買い求めください。

また各マリン専門誌では割引券が用意されています。

是非お出かけください。





バッテリーと燃料の管理について



暖冬とはいえ、年が明けて少し寒くなってきました。
マリンレジャーは、現在ほとんどの方が冬眠中ということもあって、暖かくなってからのことはあまり考えられていない場合が多いかと思えます。
「今年はまだまいつ乗るかかわらんよ」という方は特に注意してください。また春に気持ちよく愛艇に乗れるよう、艇の冬支度について少しまとめてみました。
シーズン始めによくあるトラブルとしては、バッテリー上がりがダントツの1位と言っても過言ではないようです。その他、燃料系のトラブルや、船内の結露による内装の痛みなど…数えればいろいろありますが、よくある事例をもとに紹介してみたいと思います。
長期間エンジンを運転しないと、バッテリーに充電されませんから、自然に放電してしまって、バッテリー上がりを起こします。オフシーズンや長期間乗らない場合は、バッテリー端子から、配線を外しておくのが効果的です。
できるものなら、じめじめしがちなバッテリー収納場所から出して、比較的湿度の少ない場所に保管(ご自宅のガレージや倉庫など)しておくのもっと良いでしょう。バッテリーは気温が低いと能力が落ちますから、暖かい時と比べてセルモーターの動きが悪くなる場合があります。ですから低温時の始動はバッテリーにとって過酷な条件となります。
また、ソーラーチャージャーを取り付けていれば自然放電は補えますが、長期間にわたって少なからずバッテリーに変化を与えて続けているわけですから、バッテリーの寿命を縮めてしまう場合もありますので、時々バッテリーを点検する必要があります。
ソーラーチャージャーが強力すぎる場合、チャージコントローラーなどを取り付けて充電をコントロールしてやらないと、過充電になり、バッテリー液が無くなっていったという例もあります。
また、内部の電極にサルフェーションを起こし(電極に硫酸鉛の皮膜ができて、電流を絶縁してしまう現象)、これによって電解液の比重低下が起きます。
添加剤などで比重をただ単に上げてやっても、電極が絶縁されるため、充電効率も放電パワーも落ちてしまいますから、たいがいこれでバッテリーは寿命を迎えてしまいます。
この、サルフェーションをある程度解消するために、電極にパルス(振動)を与えて硫酸鉛の膜を振るい落とす装置や、充電器などがありますので、こういったものをお使いになってみるのも良いでしょう。
また、バッテリーを交換された時期からして3年、長くても5年を目処に交換されるほうが、いざという時に助かります。シーズンの初めに交換というのも手です。
次に燃料系ですが、秋・冬・春の間は気温の変化が激しいため、燃料タンク内にある空気に含まれる水分が水滴になり、中に溜まります(結露現象)。もちろん燃料より水のほうが重いので、水は燃料タンクの底に溜まります。燃料はタンクの底部からエンジンに供給されますから、水が比較的早いうちにエンジンに供給されます。
通常、燃料タンクとエンジンの間には、油水分離器がつけられている場合が多いので、ある程度の水量ならここで食い止めることが出来ますが、一定量を超えるとエンジンに供給されて、トラブルを起こしてしまいます。この場合、油水分離器の一番下についているネジ(ドレンコック)を緩めて、溜まった水を排出しましょう。エア抜きも併せて行いましょう。
燃料の成分を劣化させない添加剤の使用も初期予防として役に立ちますが、水抜き剤は入れても効果のあるものを見たことがありませんので、何も入れないほうが良いかもしれません。
ディーゼルエンジンの様に燃料ホースを途中で簡単に外すことが出来ない場合は、タンク内の空気を少なくすれば、それだけ水分も減るわけですから、とりあえず燃料を満タンにしておくのが手取り早い方法です。
水上オートバイや、船外機などのガソリンエンジンは、気化器(キャブレター)の中に縫い針が通らないくらいの小さな穴がたくさんあります。ガソリンは気化しやすく、残留物があると、この穴に詰まりエンジンを始動できない等のトラブルを起こしやすいので、船外機ならエンジンから燃料ホースを外し、燃料タンクから燃料をすべて抜きます。そしてエンジンを掛け自然に停止するまで放っておきます。そうすることによって、配管や気化器の中の燃料をすべて燃やしておけば、トラブルを防ぐことができます。

(propman)



ライフジャケット着用のお願い



既に周知をさせていただいております、平成30年2月から小型船舶の船室外でのライフジャケット着用(桜マークの付いたものに限る)が義務化されました。

屋根と壁に囲まれた船室の中にいる方は適用除外になります。
※屋根だけを有するスペースのような風雨にさらされる場所は適用除外になりません。

※船室の窓や扉、甲板上のハッチが一時的に開いていてもその内部は適用除外になります。

命綱・安全ベルトを着用している方は適用除外になります。

乗船者にライフジャケットを着用させなかった船長(小型船舶操縦者)には違反点が2点付き、船舶免許の再講習を受けなくてはなりません。ただし、違反点数の付与は、令和4年2月1日まで行われませんが、着用による生存率は2倍以上とも言われています。

着用状況については、まだ徹底されている状況ではありません。船外では必ず着用を心がけるようにしてください。

→
桜
マ
ー
ク



株式会社トス 沖野島マリーナ

〒737-2214

広島県江田島市大柿町深江 836-3

Tel 0823 (57) 2450

Fax 0823 (57) 6845

HP <http://www.okinoshima-marina.jp>

Email okinoshima@mbp.sphere.ne.jp

発行責任者：山内貴宏

制作・編集：propman



編集後記

パラオ共和国独立25周年および日本-パラオ外交関係樹立25周年を記念して企画された『2019-2020日本-パラオ親善ヨットレース』。参加7艇+伴走帆船(みらいへ)が、2019年12月29日13:30、横浜ベイサイドマリーナ沖をスタートし、目指すは約1,700マイル先の南米の楽園パラオ。約2週間、ノンストップで約1,700マイル先のパラオ共和国へ。

1月13日現在、既に全艇フィニッシュしています。

以下、参加艇です。

(後の数字は修正順位)

①TREKKEE(Muir40Custum) 3

②AltairⅢ(X-410D) 2

③翔鷗(Hayashi60) 7

④Monday Night(Class40) 6

⑤ThetisⅣ(First40.7) 1

⑥Lucky Lady VII(Beneteau50) 5

⑦Team Palau Minny(Lagoon410) 4

レース序盤は前線の通過により荒天模様。この強風をいかに乗り越えるかが勝負どころになったようです。

レース中盤は一転、ライトなダウンウインドが続き、AltairⅢ(X-410D)が先頭に躍り出ました。トップ集団はいよいよフィニッシュラインが射程距離になるなか、部品の破断等のトラブルに奮闘する艇も。

そして、ついに2020年1月8日17:41、フィニッシュラインをAltairⅢ(X-410D)がトップで通過！その後、4艇が続々とフィニッシュ。

最後に<翔鷗(Hayashi60)>がフィニッシュして全艇がレースを終えました。

参加艇は少なかったのですが、日本から、または日本向けの国際ヨットレースといえば、かつてのハワイ~広島や、グアムレース以来ではないでしょうか。

既に各艇は帰りの支度をしていらっしゃる様子で、これからまた寒い日本に帰って来るのは少々気が引ける気もします。

できれば暖かくて綺麗な南国に居たいと思うのは誰しもがそうでしょう。これからまたこういったレースが開催されないでしょうか...

かつての景気の良かった頃が懐かしいですね。



(propman)